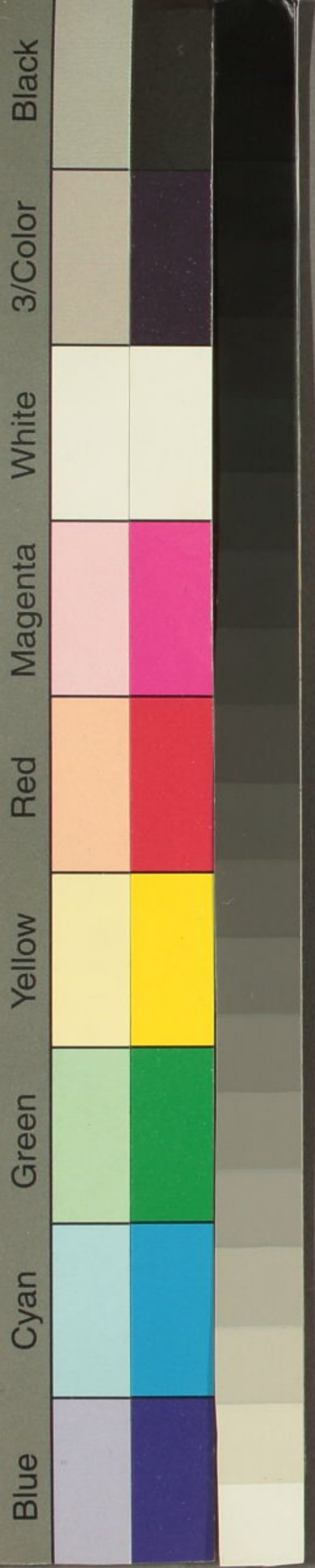


廣益俗說辨

自三十八
至四十五

殘編
 神祇 后妃 公卿士庶
 婦女 僧道 雜類地理
 雜事人物俗諺 雜類居所
 同佛家 同文字 同禽鳥
 同魚蟲 同草木 補遺 同人車
 同文字言語 同器物 同衣服
 同藥種 同食物 同居處
 同禽獸 同魚蟲 同草木
 同俗書 同俗諺 附祿或問
 殘篇 大尾



門僧
775
264

廣益俗說辨殘編總目錄

卷三十八



○神祇

鹿^カ寫^ミ立^タの説

長^{ナガ}田^タ社^{シャ}乃^ノ説

鈴^{スズ}鹿^カ社^{シャ}此^{コノ}説

○后妃

檀^{タン}林^{リン}皇^{クイ}后^ノ沔^ミ款^ケの説

○公卿

菅^{カネ}丞^{シヨウ}相^{サウ}沔^ミ款^ケ乃^ノ説

平^{ヘイ}重^{シユウ}盛^{セイ}源^{ゲン}頼^{レイ}朝^{チヨウ}と伊^イ豆^{トウ}岡^{カウ}上^{ウエ}流^{リウ}の説

○士庶

藤^{フジ}仲^{チュウ}光^{カウ}の説

頼^{レイ}朝^{チヨウ}通^{トウ}伊^イ東^{トウ}北^{ホク}条^{ジョウ}女^メ子^コ所^{シヨ}同^{ドウ}人^{ジン}討^{ツク}山^{サン}小^コ判^{パン}官^{カン}説

補 補

補 補

補

補 補 補

卷三十九

○土産

富山巴女と戦ふ説

能登寺教佐戦死の説

武藏坊弁慶ハ然登別高塔坊が子とりの説

足立藤九郎盛長と説

卷四十

○土産

楠正儀臣利家ノ降参の説

宇野孫五郎楠正儀と相ふ説

細川頼之丹波山内ノ韃居乃説

○婦女

神

神

鹽谷高貞が妻が説

教子金やまこせしむる説

○僧道

釋道公給馬の神と云ふ説

卷四十一

○雜類 地理

上徳園下徳園の説

常陸園乃説

筑前園筑後園其説

豊後園の説

兵庫茶島乃説

阿波鳴門乃説

駿河賤機山の説

陸奥千咲奈其説

神

神

神

神

神

神

神

神

神 神 補 補 神 神

卷四十二

下野室の八雲乃流
大和龍中谷其流
外國をかりし移り流
放國名後々文字以故り流
古杵國後改郡郷流
異邦書不載日中國郡等異字流

○雜類 地理

神 神 神 補 補 神

攝津國琴引坂の流
肥後國踊山の流
同國弥護山の流
駿州富士山人立の流
伴分國鏡石其流
伴豆國碁盤石の流

神 神 補 補 神 神 補 補 神 神

卷四十三

○雜事 人物 俗語

神遺 編終之後追加

志保國潮石其流
同國響石乃流
同國動石の流
隱岐國葛田辺の流
宇勢國井谷の水乃流
常陸國水河乃流
肥後國唐子本赤井の流
同國阿蘇郡小國北奇水の流
阿波國石山乃流
出雲國玉造の熱湯の流
五月五日よせり子抱あさけりとい流
諱及名乃流

神 神

名字神遺

源内平内等の名は元

臨物を鳥臨物次鳥といふ名は元

朝起の家には福まらうといは元

物しあやうといは元

金神乃元

○雑類 居處

丹波國時平左衛門の元

○雑類 伊家

大坂乃石地藏の元

○雑類 文字

石乃字はきかまといは元

船乃字はきかまといは元

神

野馬ヤバ基キハ陽ヨウ煙エンといは元

○雑類 禽鳥

五位イノ鶴ツルの元

黄鳥ワウの元

郭公クワク鶴ツルの元

○雑類 魚蟲

經ケイといは元

石火シヒ明メイ鼓コといは元

○雑類 草木

牡丹ハクといは元

杜若トシといは元

奥州高瀬川を流るる川舟の元

卷

四十四

神遺

○雑類 人事

神

息女と娘し書説

くげ後乃説

○雑類 文字言語

天竺文字孝貝帝清宇に後説

者し書説

○雑類 器物

神 一 虎折烏帽子乃説

神 又ハ乃説

○雑類 衣服

神 舊苔の油乃説

○雑類 薬種

神 香のくじり乃説

○雑類 食物

神 餅とからんと云説

神

○雑類 居處

相模国曾我全敷の説

○雑類 禽獸

神 蒙貴と猫と乃説

○雑類 魚蟲

神 硯の中より龍出乃説

○雑類 草木

神 梅と木乃説

神 日本海棠乃説

神 女帝花の説

卷四十五 神遺

○雑類 俗書

神 吳越軍乃説

神 波羅奈国沙門乃説

補 補

竹枯の伝
長八丈の鬼の伝

補 補

○ 雜類 俗謡
伊勢三編一體今身乃伝
りらここのさくらが伝

補

○ 附録
或問 十三箇條

以上八卷 引用書三百二十五部 書目終編載之

廣益俗説辨殘編三十八目錄

補 神 補

○ 神祇
康徳の説
長田江の説
江原社の説

補

○ 后妃
檀林皇太后神世の説

補 補

○ 公卿
菅原相の説
平定盛源の説
伊弉册の説
流の説

補 補

○ 士庶
藤仲光の説
杉羽通侍の説
や條女子所
同入
村山本判官の説

かきりもかりし氣はしまじんのたぐり

○公卿

神 管相沖の流

信流云知重相沖牙に。馬もく燈もまじくぬま

がかゆりりゆるぬのつくまがをむ

今物りし足は管家の沖よりめり高持資

入道直権の牙より。業集直権二乃守高資

世の中へちしこころぬ里もかぬゆりぬの

つれづれせんしりりん流しきくいつりぬ

苦むのゆりちやもつりやも考れし天海実資

其介清虫り友直相後定流されぬひりり

河内國通明にけ物ぬ定ちし人わりりり

がらん。ちきばこそりりりりりりりりり

まじりぬ里のあつりりりりりりりりり

神 平者登れ期と信國流を流

信流云為流れ期と信國流を流

りりりりりりりりりりりりりりりりり

やまひちしし事重代のま君はあまなり

知深々及平公入家のうりりりりりりり

流報よりりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりりりりり

満りりりりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりりりりり

隙踰牆て相侵へり詩に士之耽兮不可說也之
 耽兮不可說と賦せる類なりこのことなり
 こと山本にもぬり彼も志がくハ多しハ中
 死ももらん云甲斐なく二夫ももらん名物と
 人山本とと奇多なり
 夫とと物ももり礼俗の罪海に
 夫の贅とともがら改子か桑中臨印の像あり
 成りともんぞあふハは貞婦と書し神切なり
 又ともたやう故とと貞婦といふくハつも
 貞婦なりとてん

廣益俗説辨殊編三十八終

廣益俗説辨殊編三十九目錄

- 士廣
- 富山重忠巴女と我夜
- 依也寺放怪我死の説
- 武彦清辨廣ハ然野引高塚坊が不也
- 只立友九布成屋長と説

補 補 補 補

懐るれ類いしく秋うつて蚌^{ヒナ}のありと死はよ故とあら
らるる一^{ヒナ}も来ふいしくわき運^{ヒナ}ひくさそて天下と掌^{ヒナ}
振るば大國とありて切と教^{ヒナ}んしひひよはゆい
所そはとゆあて笑つりそ我^{ヒナ}和の鏡^{ヒナ}うつるそ死
我^{ヒナ}振る骨^{ヒナ}髓^{ヒナ}まつりさ^{ヒナ}法^{ヒナ}めくゆと後^{ヒナ}ますとあり
盛長がいしくろのそ死の半^{ヒナ}公の作のおとしくそんれも
君臣の義^{ヒナ}津の愛^{ヒナ}りそ造てましくとゆそ二十^{ヒナ}年^{ヒナ}の早^{ヒナ}お
とて初^{ヒナ}はそ見^{ヒナ}ふそ音^{ヒナ}孤^{ヒナ}えん^{ヒナ}終^{ヒナ}りどやとゆれ^{ヒナ}期^{ヒナ}も云
後^{ヒナ}ひ^{ヒナ}あ^{ヒナ}てあ^{ヒナ}の^{ヒナ}く^{ヒナ}有^{ヒナ}り

今^{ヒナ}振^{ヒナ}り^{ヒナ}て^{ヒナ}死^{ヒナ}の^{ヒナ}事^{ヒナ}作^{ヒナ}て^{ヒナ}實^{ヒナ}源^{ヒナ}より^{ヒナ}て^{ヒナ}ん^{ヒナ}そ^{ヒナ}よ^{ヒナ}
獲^{ヒナ}秦^{ヒナ}初^{ヒナ}之^{ヒナ}燕^{ヒナ}貸^{ヒナ}百^{ヒナ}錢^{ヒナ}為^{ヒナ}資^{ヒナ}及^{ヒナ}得^{ヒナ}富^{ヒナ}貴^{ヒナ}以^{ヒナ}百^{ヒナ}金^{ヒナ}償^{ヒナ}之^{ヒナ}
偏^{ヒナ}報^{ヒナ}諸^{ヒナ}所^{ヒナ}嘗^{ヒナ}見^{ヒナ}德^{ヒナ}者^{ヒナ}其^{ヒナ}徒^{ヒナ}者^{ヒナ}有^{ヒナ}一^{ヒナ}人^{ヒナ}獨^{ヒナ}味^{ヒナ}於^{ヒナ}報^{ヒナ}乃^{ヒナ}前^{ヒナ}
自言^{ヒナ}蘓^{ヒナ}秦^{ヒナ}曰^{ヒナ}我^{ヒナ}非^{ヒナ}忘^{ヒナ}子^{ヒナ}子^{ヒナ}之^{ヒナ}與^{ヒナ}我^{ヒナ}至^{ヒナ}燕^{ヒナ}再^{ヒナ}三^{ヒナ}欲^{ヒナ}去^{ヒナ}我^{ヒナ}
易^{ヒナ}水^{ヒナ}之^{ヒナ}上^{ヒナ}方^{ヒナ}此^{ヒナ}時^{ヒナ}我^{ヒナ}困^{ヒナ}故^{ヒナ}望^{ヒナ}子^{ヒナ}深^{ヒナ}且^{ヒナ}以^{ヒナ}後^{ヒナ}子^{ヒナ}子^{ヒナ}今^{ヒナ}亦

得^{ヒナ}矣^{ヒナ} 漢^{ヒナ}書^{ヒナ} 説^{ヒナ}と^{ヒナ}も^{ヒナ}つ^{ヒナ}て^{ヒナ}ゆ^{ヒナ}り^{ヒナ}や^{ヒナ}ら^{ヒナ}る^{ヒナ}もの^{ヒナ}なる^{ヒナ}べ^{ヒナ}し^{ヒナ}や^{ヒナ}り^{ヒナ}そ
人^{ヒナ}り^{ヒナ}ぐ^{ヒナ}力^{ヒナ}の^{ヒナ}あり^{ヒナ}き^{ヒナ}以^{ヒナ}て^{ヒナ}減^{ヒナ}ら^{ヒナ}し^{ヒナ}る^{ヒナ}ま^{ヒナ}や^{ヒナ}鐘^{ヒナ}の^{ヒナ}其^{ヒナ}裏^{ヒナ}と^{ヒナ}ん^{ヒナ}
さ^{ヒナ}ら^{ヒナ}ぶ^{ヒナ}と^{ヒナ}く^{ヒナ}眼^{ヒナ}の^{ヒナ}其^{ヒナ}裏^{ヒナ}と^{ヒナ}る^{ヒナ}こと^{ヒナ}れ^{ヒナ}や^{ヒナ}ら^{ヒナ}る^{ヒナ}ひ^{ヒナ}も^{ヒナ}ひ^{ヒナ}も^{ヒナ}智^{ヒナ}ある^{ヒナ}
人^{ヒナ}と^{ヒナ}い^{ヒナ}ふ^{ヒナ}も^{ヒナ}これ^{ヒナ}と^{ヒナ}曉^{ヒナ}も^{ヒナ}と^{ヒナ}あ^{ヒナ}ら^{ヒナ}ん^{ヒナ}が^{ヒナ}成^{ヒナ}も^{ヒナ}つ^{ヒナ}て^{ヒナ}他^{ヒナ}よ
い^{ヒナ}ん^{ヒナ}も^{ヒナ}そ^{ヒナ}例^{ヒナ}する^{ヒナ}の^{ヒナ}ら^{ヒナ}れ^{ヒナ}も^{ヒナ}の^{ヒナ}成^{ヒナ}え^{ヒナ}ら^{ヒナ}んで^{ヒナ}用^{ヒナ}め^{ヒナ}て^{ヒナ}人^{ヒナ}の^{ヒナ}
い^{ヒナ}ま^{ヒナ}り^{ヒナ}成^{ヒナ}好^{ヒナ}んで^{ヒナ}我^{ヒナ}ち^{ヒナ}も^{ヒナ}や^{ヒナ}ま^{ヒナ}ら^{ヒナ}し^{ヒナ}と^{ヒナ}あ^{ヒナ}ら^{ヒナ}る^{ヒナ}は^{ヒナ}告^{ヒナ}これ
り^{ヒナ}り^{ヒナ}そ^{ヒナ}ら^{ヒナ}り^{ヒナ}は^{ヒナ}か^{ヒナ}ら^{ヒナ}ず^{ヒナ}方^{ヒナ}逃^{ヒナ}志^{ヒナ}齊^{ヒナ}箴^{ヒナ}曰^{ヒナ}見^{ヒナ}人^{ヒナ}不^{ヒナ}善^{ヒナ}莫^{ヒナ}
不^{ヒナ}知^{ヒナ}惡^{ヒナ}己^{ヒナ}有^{ヒナ}不^{ヒナ}善^{ヒナ}安^{ヒナ}以^{ヒナ}不^{ヒナ}顧^{ヒナ}人^{ヒナ}之^{ヒナ}惡^{ヒナ}々^{ヒナ}心^{ヒナ}與^{ヒナ}汝^{ヒナ}同^{ヒナ}汝^{ヒナ}
惡^{ヒナ}不^{ヒナ}改^{ヒナ}人^{ヒナ}寧^{ヒナ}汝^{ヒナ}容^{ヒナ}惡^{ヒナ}己^{ヒナ}所^{ヒナ}惡^{ヒナ}德^{ヒナ}乃^{ヒナ}日^{ヒナ}新^{ヒナ}己^{ヒナ}無^{ヒナ}不^{ヒナ}善^{ヒナ}斯^{ヒナ}
能^{ヒナ}惡^{ヒナ}人^{ヒナ}言^{ヒナ}人^{ヒナ}の^{ヒナ}あり^{ヒナ}き^{ヒナ}汝^{ヒナ}ん^{ヒナ}と^{ヒナ}あ^{ヒナ}ら^{ヒナ}る^{ヒナ}こと^{ヒナ}も^{ヒナ}な^{ヒナ}ら^{ヒナ}ぬ^{ヒナ}ん^{ヒナ}
る^{ヒナ}ん^{ヒナ}れ^{ヒナ}も^{ヒナ}り^{ヒナ}か^{ヒナ}も^{ヒナ}の^{ヒナ}あり^{ヒナ}き^{ヒナ}こと^{ヒナ}も^{ヒナ}成^{ヒナ}べ^{ヒナ}の^{ヒナ}ま^{ヒナ}り^{ヒナ}だ^{ヒナ}と^{ヒナ}
あ^{ヒナ}ら^{ヒナ}る^{ヒナ}た^{ヒナ}ら^{ヒナ}ど^{ヒナ}人^{ヒナ}の^{ヒナ}汝^{ヒナ}知^{ヒナ}と^{ヒナ}も^{ヒナ}く^{ヒナ}む^{ヒナ}ら^{ヒナ}が^{ヒナ}人^{ヒナ}の^{ヒナ}知^{ヒナ}と^{ヒナ}も^{ヒナ}く^{ヒナ}む^{ヒナ}
よ^{ヒナ}同^{ヒナ}ら^{ヒナ}り^{ヒナ}が^{ヒナ}これ^{ヒナ}あ^{ヒナ}ら^{ヒナ}る^{ヒナ}は^{ヒナ}成^{ヒナ}り^{ヒナ}て^{ヒナ}か^{ヒナ}あ^{ヒナ}ら^{ヒナ}じ^{ヒナ}
よ^{ヒナ}成^{ヒナ}り^{ヒナ}ふ^{ヒナ}と^{ヒナ}も^{ヒナ}用^{ヒナ}る^{ヒナ}もの^{ヒナ}か^{ヒナ}ら^{ヒナ}ぬ^{ヒナ}と^{ヒナ}地^{ヒナ}の^{ヒナ}あり^{ヒナ}き^{ヒナ}と^{ヒナ}も^{ヒナ}あ^{ヒナ}ら^{ヒナ}じ

事つゞこのふふあり成知くすゝゑうゝあゝゝゝゝゝ
其徳をふみゆくなり我身ありま事なくしてひとの
忍とんば誰人も使申すしつり言と忍とふ一心なり
やうとしんども羨ふとて千里なりけりて書成
談てえんと暖くくす有成成をそ忍成梅のゝゝゝ
りり成神道とて後原とるふ後海に流るゝゝゝ
深のけりゝ成成とすも也りりゝゝゝ
ゆさけりゝゝゝの風とんなりつゝゝゝゝゝ
空ゝゝゝゝゝ終る海ゝゝゝゝゝゝゝゝ

廣益俗説辨殘編三十九終

廣益俗説辨殘編四十目錄

○士庶

楠正儀是村家、降系乃伝
宇部、徳王丸楠正儀と相ふ説
細川頼之丹波山岡、徳居の伝

○婦女

鹽谷高貞が妻乃伝
静、金焼やゝゝゝ

○僧道

釋道公繪馬の神と見ゆ伝

廣益俗說辨疑編四十

肥後隈本

井澤節長秀輯録

○士庶

補

楠正儀是利家、輝美の説

俗間正儀の書、楠正儀の家から男の記が知らる
又見乃成氏に記を、成氏に「げき」も「君成」
根をとりて是利家、輝美の

今世より、非なりは説是利家記、元言三代記

園大巻記、梅松海、南朝記、名もつて、成氏、何

據て記し、成氏、尋に成氏の説、成氏、何

ふ、成氏、何、成氏、何、成氏、何、成氏、何

系、成氏、何、成氏、何、成氏、何、成氏、何

成氏、何、成氏、何、成氏、何、成氏、何

成氏、何、成氏、何、成氏、何、成氏、何

西子と書信書不効書コトハクシのこまゝあり、何れも書
 せぬ。多きも信実録には撰ぐしと三人歸七人
 以正兒類式引治しとあり、その忠臣曾其氏也の
 おとく無撮りりやむ歎ぐし、は成始成との
 と愛ごん千歎彼城まといて病死より後年紀曰
 永徳二年二月相國儀き病はつるされ及瓜年終り
 たりしは其子心勝西へ瓜年終りて其子の遺刺とす
 りてた然と所をとし、た所のこゝにびと共切なく
 しとあり、そのり法事相りて、コトハクシ、コトハクシ、コトハクシ
 命成た義のる、コトハクシ、コトハクシ、コトハクシ
 びと西をく、コトハクシ、コトハクシ、コトハクシ
 補 字は然王九相儀と相儀
 僧況云吏判官光教撰海國よりりて相儀と然り、
 光教が家人と相儀とす、コトハクシ、コトハクシ、コトハクシ

光教よりりは相儀の父が歎るれば、何月か歎て、コトハクシ
 ことごとく、コトハクシ、コトハクシ、コトハクシ
 常、コトハクシ、コトハクシ、コトハクシ
 かくて相儀王赤坂の城より、コトハクシ、コトハクシ、コトハクシ
 十六七、コトハクシ、コトハクシ、コトハクシ
 なるぬき、コトハクシ、コトハクシ、コトハクシ
 賜る、コトハクシ、コトハクシ、コトハクシ
 相儀とて、コトハクシ、コトハクシ、コトハクシ
 今、コトハクシ、コトハクシ、コトハクシ
 守ま、コトハクシ、コトハクシ、コトハクシ
 情、コトハクシ、コトハクシ、コトハクシ
 歎、コトハクシ、コトハクシ、コトハクシ
 了、コトハクシ、コトハクシ、コトハクシ
 候、コトハクシ、コトハクシ、コトハクシ

補 補

古稱國後改郡鄉説
異邦書不載日本國郡等異字説

廣益俗説辨疑編四十一

肥後隈本

井澤節長秀輯録

○雜類 地理

補 上総國下総國の記

俗記云上総下総とははなはた久本の故なり昔の國長
二百丈の樹生る時帝の殿前へ下り御使と
てさるるしりし故昔瓜トキも下河原の
常木なりしゆひよつてのな成成しり南
方へ成成しりぬしりなるしりしり
下河原のしりしりしりしり

今林の非なり古語拾遺曰天富命更東決壊分可
皮齊都平往東土播直麻穀好麻所生故謂之德
國穀本所生謂之德城郡○註曰古語麻謂之德
今為上総下総二國是也○同書句解曰德城郡

在下伝考へん

○常陸國の記

後記云常陸はは國志不き一カありて國民のこ
づひひりり。依く常陸國といふは、
今按ふ、非中り常陸風土記曰是國通路相登
郡郷接境無江海之障無津濟之難峯谷用路
相通名曰常陸國釋曰と常陸國誌よりり
又々々

補 筑前國筑後國の記

後記云崇神天皇紀伊の國より筑前一多後守の地
と記しり。筑前海と石火と云々。筑前と筑後と云
今按ふ、非中り筑前筑後同筑前國者乎筑前國
今爲一國此兩國之間山有後校坂往來之所駕鞍

鞆被摩畫主人曰鞆鞆坂釋曰た、鞆鞆と麻子

筑前筑後と云々。筑前筑後と云々。筑前筑後と云々。

筑前筑後と云々。筑前筑後と云々。筑前筑後と云々。

補 豊後國の記

後記云豊後崇神天皇の國は大内表と云り
後ハ國ハ後と云り。筑前と云り。筑前と云り。
今按ふ、非中り豊後風土記曰豊後國者牟婁豊

前國爲一國昔經向日代官御宇大足彦命景行

詔豊國直祖菟名手建治豊國往到豊前國者

臣村于時日晚止宿明日昧爽忽有白鳥從地

飛來翔集此村其鳥化爲餅片時之間更化于

俗伝云あり故書云みらありき名ありきと云々思はらるる
以て田村麻呂と名置れし故を以て今も其地を麻呂と云ふ

今按るに因幡麻呂なる者城長茂なり今津風土
記曰千笑原在河沼郡永年中越後城四布

長茂築之二十八里于撰り藤村宇内村者遺

址焉此原長茂與其妻竈御前遊觀之地也當時

我千種芍薬至今蒲原百芍薬而呼千笑原芍

芳遠聞故其南曰香原東北有袋原形如袋有

竈塚有御前清水有沼之中有洲史妻宴于此

曰舞臺沼東南有塚相傳竈使極樂寺僧

侶寫徑有石封之今石上之石時見文字云○

會津四家合考附録曰今終河註宇内村藤村

共有古墨存以今考藤村行越別往也宇内邊

亦行越本道也今宇内村北六七里有千用原

以芍薬多種得名也此原東北二三里有袋原此

有竈塚御前舞臺沼等之陳跡傳曰每春花時

長茂携於婦人竈御前遊千用原又遊袋原款

舞云如此則竈者悲妓也而長茂妾乎以上事

跡是長茂每春出越巡檢於封疆而到此可有

此事也とあり考へ見ゆ

神下野宮八箇ノ伝

俗伝云下野宮八箇ノ伝ハ往者ハ福大信ト云ハ伝セ

り其名と傳へり

今按るに那なり室ハ為ハ名木苑田村

今按るに那なり室ハ為ハ名木苑田村

今按るに那なり室ハ為ハ名木苑田村

今按るに那なり室ハ為ハ名木苑田村

今按るに那なり室ハ為ハ名木苑田村

祭八神考神代卷曰故皇孫就而留住時彼國
有美人名曰鹿葦津姬亦名神吾田津姬亦
問此美人曰汝誰女子耶對曰妾是天神娶大
山祇神所生兒也皇孫因幸之即一夜而有娠
皇孫未之信曰雖復天神何能一夜之間令人
有娠乎汝所懷者必非我子歟故鹿葦津姬令
恨乃作無戸室入居其內而誓之曰妾所懷若
非天孫之亂必當穢滅如實天孫之亂火不能
害即放火燒室始起煙末生出之兒號火燗淨
命是祖也次避熱而居生出之兒號火燗淨
出見尊次出出之兒號火燗淨
子矣○藤濱成天書曰既而皇孫等始張連九
輝照令六合為八坂瓊王之光則自櫛比之狀
蓋上之天浮橋立於浮渚在平處而背亮乃

為至國自願固覓困求里行幸為止御故者御
於吾田長屋發狹之崎其人魁號事勝國勝長
狹待皇孫之行幸初之皇孫勅二神問曰自此
及下在何國耶否矣此有國請任勅意遊御
故皇孫留御其地于時有國之人曰鹿葦
津比咩亦名木花耶姬皇孫任勅御精怡
々焉依之勅曰汝乙女誰女子耶於此國有
此色者宜雖天神不知此矣對曰妾是地祇
大山祇之神子也皇孫暫御此女幸之
即有娠皇孫因之始且此不信宸慮無分曰
雖天神之造切何能一夜之間如斯有娠乎
汝所懷者必非我子也歟故鹿葦津比咩乃
妾所懷若非天孫之子者必當成灰為水如

補

伊余舊事紀
熊籠扶桑略記曰然
都佐舊事紀
土左日本紀古事記

筑志舊事紀
大角同書
豐舊事紀
火舊事紀
伊吉舊事紀
集鳩大和奉記

伊伎大和奉記
津鴻舊事紀
大角同書
火舊事紀
伊吉舊事紀
集鳩大和奉記

萬城今大和郡
總今參河郡
師長今相模郡
久勢今遠江郡
知々夫今武藏郡
上海今上總郡
菊麻今上總郡
新治今常陸郡
仲國今同郡
菊多今陸奥郡
凍羽今同郡

須惠今上總郡
馬末田今上總郡
武社今上總郡
下海上今下總郡
淡城今同郡
高國今同郡
伊久今同郡
上海今上總郡
菊麻今上總郡
新治今常陸郡
仲國今同郡
菊多今陸奥郡
凍羽今同郡

伊基今上總郡
須惠今上總郡
馬末田今上總郡
武社今上總郡
下海上今下總郡
淡城今同郡
高國今同郡
伊久今同郡
上海今上總郡
菊麻今上總郡
新治今常陸郡
仲國今同郡
菊多今陸奥郡
凍羽今同郡

筑波今同郡
久自今同郡
阿尺今陸奥郡
須惠今上總郡
馬末田今上總郡
武社今上總郡
下海上今下總郡
淡城今同郡
高國今同郡
伊久今同郡
上海今上總郡
菊麻今上總郡
新治今常陸郡
仲國今同郡
菊多今陸奥郡
凍羽今同郡

浮田今同郡
復羽今信濃郡
江沼今加賀郡
久比今越前郡
明石今同郡
三野今同郡
品治今備後郡
阿武今長門郡
久味今伊豫郡
風速今同郡
宇佐今豐前郡
末羅今肥前郡
葦分今同郡
天草今同郡
小市今同郡
波多今同郡
國前今豐後郡
大馬今周防郡
能野今同郡
大伯今備前郡
下道今備中郡
二方今但馬郡
羽咋今能登郡
三國今能登郡
石背今同郡
信夫今同郡
白河今同郡
石城今同郡
角鹿今同郡
伊彌頭今同郡
鴨今同郡
上道今同郡
加夜今同郡
都怒今同郡
長今同郡
怒今同郡
末多今同郡
比多今同郡
阿蘆今同郡
葛津今同郡

後命為大活河沼郡
葦分今同郡
天草今同郡
小市今同郡
波多今同郡
國前今豐後郡
大馬今周防郡
能野今同郡
大伯今備前郡
下道今備中郡
二方今但馬郡
羽咋今能登郡
三國今能登郡
石背今同郡
信夫今同郡
白河今同郡
石城今同郡
角鹿今同郡
伊彌頭今同郡
鴨今同郡
上道今同郡
加夜今同郡
都怒今同郡
長今同郡
怒今同郡
末多今同郡
比多今同郡
阿蘆今同郡
葛津今同郡

後命為大活河沼郡
葦分今同郡
天草今同郡
小市今同郡
波多今同郡
國前今豐後郡
大馬今周防郡
能野今同郡
大伯今備前郡
下道今備中郡
二方今但馬郡
羽咋今能登郡
三國今能登郡
石背今同郡
信夫今同郡
白河今同郡
石城今同郡
角鹿今同郡
伊彌頭今同郡
鴨今同郡
上道今同郡
加夜今同郡
都怒今同郡
長今同郡
怒今同郡
末多今同郡
比多今同郡
阿蘆今同郡
葛津今同郡

後命為大活河沼郡
葦分今同郡
天草今同郡
小市今同郡
波多今同郡
國前今豐後郡
大馬今周防郡
能野今同郡
大伯今備前郡
下道今備中郡
二方今但馬郡
羽咋今能登郡
三國今能登郡
石背今同郡
信夫今同郡
白河今同郡
石城今同郡
角鹿今同郡
伊彌頭今同郡
鴨今同郡
上道今同郡
加夜今同郡
都怒今同郡
長今同郡
怒今同郡
末多今同郡
比多今同郡
阿蘆今同郡
葛津今同郡

後命為大活河沼郡
葦分今同郡
天草今同郡
小市今同郡
波多今同郡
國前今豐後郡
大馬今周防郡
能野今同郡
大伯今備前郡
下道今備中郡
二方今但馬郡
羽咋今能登郡
三國今能登郡
石背今同郡
信夫今同郡
白河今同郡
石城今同郡
角鹿今同郡
伊彌頭今同郡
鴨今同郡
上道今同郡
加夜今同郡
都怒今同郡
長今同郡
怒今同郡
末多今同郡
比多今同郡
阿蘆今同郡
葛津今同郡

後命為大活河沼郡
葦分今同郡
天草今同郡
小市今同郡
波多今同郡
國前今豐後郡
大馬今周防郡
能野今同郡
大伯今備前郡
下道今備中郡
二方今但馬郡
羽咋今能登郡
三國今能登郡
石背今同郡
信夫今同郡
白河今同郡
石城今同郡
角鹿今同郡
伊彌頭今同郡
鴨今同郡
上道今同郡
加夜今同郡
都怒今同郡
長今同郡
怒今同郡
末多今同郡
比多今同郡
阿蘆今同郡
葛津今同郡

後命為大活河沼郡
葦分今同郡
天草今同郡
小市今同郡
波多今同郡
國前今豐後郡
大馬今周防郡
能野今同郡
大伯今備前郡
下道今備中郡
二方今但馬郡
羽咋今能登郡
三國今能登郡
石背今同郡
信夫今同郡
白河今同郡
石城今同郡
角鹿今同郡
伊彌頭今同郡
鴨今同郡
上道今同郡
加夜今同郡
都怒今同郡
長今同郡
怒今同郡
末多今同郡
比多今同郡
阿蘆今同郡
葛津今同郡

後命為大活河沼郡
葦分今同郡
天草今同郡
小市今同郡
波多今同郡
國前今豐後郡
大馬今周防郡
能野今同郡
大伯今備前郡
下道今備中郡
二方今但馬郡
羽咋今能登郡
三國今能登郡
石背今同郡
信夫今同郡
白河今同郡
石城今同郡
角鹿今同郡
伊彌頭今同郡
鴨今同郡
上道今同郡
加夜今同郡
都怒今同郡
長今同郡
怒今同郡
末多今同郡
比多今同郡
阿蘆今同郡
葛津今同郡

後命為大活河沼郡
葦分今同郡
天草今同郡
小市今同郡
波多今同郡
國前今豐後郡
大馬今周防郡
能野今同郡
大伯今備前郡
下道今備中郡
二方今但馬郡
羽咋今能登郡
三國今能登郡
石背今同郡
信夫今同郡
白河今同郡
石城今同郡
角鹿今同郡
伊彌頭今同郡
鴨今同郡
上道今同郡
加夜今同郡
都怒今同郡
長今同郡
怒今同郡
末多今同郡
比多今同郡
阿蘆今同郡
葛津今同郡

後命為大活河沼郡
葦分今同郡
天草今同郡
小市今同郡
波多今同郡
國前今豐後郡
大馬今周防郡
能野今同郡
大伯今備前郡
下道今備中郡
二方今但馬郡
羽咋今能登郡
三國今能登郡
石背今同郡
信夫今同郡
白河今同郡
石城今同郡
角鹿今同郡
伊彌頭今同郡
鴨今同郡
上道今同郡
加夜今同郡
都怒今同郡
長今同郡
怒今同郡
末多今同郡
比多今同郡
阿蘆今同郡
葛津今同郡

○右國造本紀所載也

許乃國山城屋記。今山

信太國同書

補郡名後改文字說

藏隆國日本紀

飽波同書

丹比今丹南丹北

甲可鎮座傳紀。同本縁

阿提今有田

安諦日本靈異記

年魚市大和本紀

參河播豆三代實錄

駿河安辨駿河風土記

玖珂大内日記

英多備中風土記

備中賀次今賀屋

龜石長祿年中大内氏日記

吉田今無

下總岡田延喜式。後

安農日本後紀

越前賀日本靈異記。日本後紀曰

伊賀敢倭姬世紀。神名秘書

隱倭姬世紀。鎮座本縁

出雲出雲小縁紀曰。後

筑前今那珂

幡垂國常陸國誌。今常

大和菟田同書

河更荒今讚良

丹治比日本靈異記

伊栗田日本紀

紀伊伊刀今伊都

阿育同書

葉栗今搦囊鈔

遠江長田今三郡云

周防能野今無

美作谷田今言田為。西若東

備前藤原改藤野

備後三次三代實錄

長門豐東今無

厚東同書

佐渡鹿耳扶桑畧記

見爾磨今無

伊豫神野日本後紀。文德

信濃八橋三代實錄

河内神宮儀式帳

名獵日本紀

伊山同書

伊山同書

搗舂 筑前風土記
今遠賀

後三木 日本紀
今三池

吉志麻後世

皮志 同書

豐前宮子 日本靈異記
今京都

日鷹 豐西記

碩田 豐後風土記

大隅串卜 大隅風土記。今始
羅郡串伎鄉歌

補異邦書所載日本國郡等異字說

讀者 武備志

竹後 同書

非谷 肥後志

達哥 武備志

都斯麻 對北馬

御牧 大内家日記。今無
但謬御多歎

肥前資熊 萬葉集。今存
肥前地志曰

肥後熊 日本紀

肥前宗 筑前風土記

肥後日高 豐後風土記
今日田

肥多 同書

日向古庚 搥囊鈔
今兒湯

壹伎伊佐 壹伎風土記。今壹伎
郡鯨伏鄉

肥前 四部稿選

甲斐 西朝平壤錄

肥后 登壇必究

洞支 同書

洞津 武備志
同安津津

沙界 蒼霞草
和泉城

素埋

元什麻船 同書備前牛窓。嚴鳴請
記西國船路記作牛轉

阿家殺記 同書長門
赤間関

法哈達 同書
抗前博多

法哥慈機 同書
同箱崎

阿麻園撒 蒼霞草。圖書編
肥後天草

牙子世祿 同書
同代

也望加 同書
同山鹿

撒一基 同書
同佐伯

多藝云 同書
大隅種嶋

用懷世利 同書同飽
同郡河尻

可若瀬 圖書編
豐前小倉

都伊沙只 諸國記
同鶴崎

瓢船各 圖書編
撰津兵庫

阿家世 同書
播磨明石

茄賣登 同書
同蒲刈

阿介馬矢 同書
同書

花旭塔 武備志

飛蘭鳩 三人國會

昏陀 同書
同字土

達加代 同書
同玉名郡高瀬

福乃 同書
同後府内

鹿園什磨 圖書編
薩摩鹿兒嶋

廣益俗說辨殘編四十一終

廣益俗說辨殘編四十二目錄

○雜類地理

- 補 枋津國琴引坂の流
- 補 肥後國踊山の流
- 補 同國弥護山の流
- 補 駿州富士の人穴の流
- 補 伊豆國鏡石の流
- 補 伊豆國碁盤石の流
- 補 土佐國潮石の流
- 補 同國郷音石の流
- 補 土佐國動石の流
- 補 隠岐國葛田の池の流
- 補 伊豆國井倉水の流
- 補 常陸國水戸の流

水神とまらなり旱のヒナリとれたり雨ありと云ふ
れよりつゝ水神の紅と云居神堂と云はく
信長草子に記しりてその山と云ふは此の山と云ふ
るに本那もいれりて其の山と云ふは此の山と云ふ

今按く水経曰江水斯乃三峡之首也縣有二山
澤水神旱時鳴鼓請雨必應ヒナリなり

補 同國弥護山の説

俗流之同國合志郡ヤブ弥護山といふあり山に風穴あり
りといふありふたふたの花瓜人れを忽と風と云ふ

今按く水経曰河水又南過河東北屈縣西注曰河
水南逕北屈縣西十里有風山上有穴如輪風氣蕭
瑟廬山後録曰東岳廣福院寺前山中有風穴故多
風事文類聚要玄曰方山荊州府長湯南四面俱方
有風穴夏則風出冬則風入春秋分則靜入曰汝州
東上者風穴と云ふ同

補 駿河富士人穴の説

建仁二年六月三日源頼家の命よりつて仁田四郎忠常
從者五人と見しと後列富士の人穴に入翌日忠常
穴より出づといふ相明と云ふ穴へ入る路の間は
水よりれて空とひそむ所少と云ふ穴と云ふと
切流と云ふ穴と云ふ穴と云ふ穴と云ふ穴あり
穴と云ふ穴と云ふ穴と云ふ穴と云ふ穴あり
膏して周と云ふ穴と云ふ穴と云ふ穴と云ふ穴あり
今按く川と云ふ穴と云ふ穴と云ふ穴と云ふ穴あり
今按く談苑曰韶別峯水場往歲銅釜掘地二十餘
丈即見銅今銅釜少掘地益深至七八丈後夫云
地中窺怪至穴者冷煙氣中人死後夫掘地而入必

今按... 洽爾記曰汾陽有天池在燕京山上周廻
八里陽早不耗陰霖不溢。通鑑地理通釋曰天池
在嵐州靜樂縣北燕京山上周廻八里陽早不耗陰
霖不溢。錄異記曰藥水在房州西四十里水常數
寸不耗不溢

補 常陰國以乃河の說

侍云常陰國二日余乃東にあり活水穴なり人馬
の飲とときもば涌沸湯のおも

今按... 豐後風土記曰速見
郡玖倍理湯井在郡此湯井在郡西河有山東
岸口湯色黑泥土常不流人竊到井邊發聲
大言鴛鳴涌騰二丈餘許其氣熾熱不可向
草木悉皆枯萎因曰温湯井俗語曰玖倍理湯
井。入蜀紀見曰巴縣不語灘々陰甚相傳舟

小湧

過此戒入言々則水勢瀆湧不語則平易。林
水録曰温水出竟陵之新陽縣東潭中口徑二
丈五尺根岸重沙端淨可愛靜以察之則淵泉
如鏡聞人聲則揚湯奮發其熱可以燂雞。事
言要玄曰南京鳳陽府咄泉壽州人至大呼大
湧咄之則湧彌甚又曰應天府喜客泉在茅山
客至則湧出故名又有撫掌泉聞擊掌之聲則
湧又曰廬州府笑泉人有笑漫泉益處沸。潛
確類書曰西寧衛有泉聞人足音即湧。其
追考豐後風土記曰日田郡五馬山温泉其穴似井丈餘無知深淺水也
如津常不流聞人之聲鴛鳴涌騰泥土二丈餘。會津風土記曰東嶽熱湯在
耶麻郡東嶽西股自石鑿一穴發出焉硫磺出味酸澁能治積聚盛衰人
多集于此或浴之飲之不敢高声語若噴詬則雲霧驟起風雲暴至

補 肥後國康子木赤井の說

俗從云肥後國山幸郡康子木村の井あり地震ト云々
水色甚赤し何故ト云々

補 以皇國王造熱湯の説 附異水

從後を以て皇國河のゆかりの熱湯之
記を以て河とつゞけしものありて熱湯の中よふ
ふとてやまの病疾せむ

今抄の... 寒温すうり... 水ありとの事

言要玄曰漳州府李澳溪漳浦西源出梁山北

灌田千頃又有綏女等五溪亦有灌溉之利内

温溪在縣西兩泉湧出東西相對一微煖一極

熱惠州府三井府城北三井相連其泉一冷一

温一熱又曰圓泉在浙列永興南泉半暖半冷

久處極清暖處極濁... 〇

附異水 潯陽記曰廬山西南有康王谷又有北

嶺城天欲雨輒聞鼓角蕭管之聲雞籠山下洞

中有數處累石若有人切水常深尺餘朝夕輒

有湧泉溢出如潮水時刻不差朔望尤號為潮

泉〇滇行記曰碧玉泉有曹溪有泉甚清一日

三潮以辰午酉三時水必漲滿三餘半涸貴州

省有泉一日盈一日涸〇志恠録曰深州東麻

縣中有水影長七八尺遙見人馬往來如在水

中及至所不見水〇廣輿記曰四川蒙州府在

多喜山上有雌雄二泉名温丹井春夏則左盈

右竭秋冬則右盈左竭〇涼州記曰祁連山張

掖酒泉二界之上東西二百里南北百餘里山

中冬温夏凉水〇方輿記曰沸井丹陽縣南井

有四二清二濁騰湧滾沸晝夜不絕又有雙井

南者赤北者黃

廣益俗説辨殘編四十二終

廣益俗説辨殘編四十二目錄

○雜事 人物俗諺

五月五日まきり子ハ親ハあつあつと云

諺級格ハ云

名字補遺

源内平内字の各の流

監物を而て定物ハ初と云各の流

細衣の家ハは福耳り云

物ハあやうの流

金押ハ云

○雜事 居所

丹波國時平公教の流

○雜事 佛家

大坂石地花ハ云

補

補

補

補

補

補

補

補

補

補

補

補

廣益俗說辨疑編四十三

肥後隈本

井澤節長秀輯録

○雜事 人物 俗説

補五月五日ウツヒは生ウマりコ子コは親ツチよアりト云ク況

俗説云五月ウツヒありコりコ子コは親ツチよアりト云ク況

ハ親ツチよアりト云ク況

今所イマりコ子コは親ツチよアりト云ク況

五月ウツヒ日ヒ降ツキ延ノビ承ノリ平ヘイ元年ノトシ七月シチゲツ十九ジュウニウ日ヒ朔ツキ初ハジメ六ムツ十ジュウ六ムツ

扶桑フサウ畧リヤク記キのニ云ク況

五月ウツヒ日ヒ降ツキ延ノビ承ノリ平ヘイ元年ノトシ七月シチゲツ十九ジュウニウ日ヒ朔ツキ初ハジメ六ムツ十ジュウ六ムツ

將受命マシタマハレ於ニ戸コ那ナ必受命カナラシクマシタマハレ於ニ天アメ河カハ最ト焉ニ必受命カナラシクマシタマハレ

於ニ戸コ那ナ必受命カナラシクマシタマハレ於ニ天アメ河カハ最ト焉ニ必受命カナラシクマシタマハレ

漢書カンショのニ云ク況

補 詳 及 俗 説

俗間詳叙始と云々

桓武天皇延暦四年五月詔曰臣子之禮必避

君諱頂者先帝御名及朕之諱公私觸犯猶不忍

聞自今以後宜並改避續日本紀桓武天皇諱山部

今改山部姓曰山按日本後紀光仁天皇諱白髮今

改白髮姓為真髮部同書仁明天皇諱神野今改

伊豫國神野郡為新居郡實錄寬元帝後嵯諱

邦仁以經史所載國人諱久爾多美建治帝

後宇諱世仁以經史所載世人諱世乃比登天

訓比等歷代實錄藤原不比等曰史。藤原馬養曰宇合續日本紀

又名藤原不比等曰史。藤原馬養曰宇合懷風藻

作馬養。系圖作宇合。橘廣相曰博覽。鴻田忠臣

曰達音。紀長谷雄曰發昭。皆音訓通用也。賀茂

家倍仲滿或記仲麻呂滿麻呂音之轉也。賀茂

姓稱慶滋姓者以賀茂二字訓與之々訂混之慶滋

補名字神遺

今輯拾抄和兩雜節用集未載者

一居三條帝居神皇正統記盛衰記井續日本後紀典泉五

紀五友張葉邦葉二似庭上借徒識駿早速迅

老大常戒行薩執競茂後堀河常親明天間白司小已

刑雄利三繩薩統克養篤揖日令顯瀧刷小已

勝耐新勇皇洙徑達止崔崇操乙藤乙敷谷

音烈勢橘逸勢體在衛帝引良一條室兵藤兵

雄概臆梁上宇占裏內良一條依延室兵藤兵

御仁帝方八樂上宇占裏內良一條依延室兵藤兵

誠仁源自江兄柯柄同政手政發鏡鏡章曉光義光白

自明源自江兄柯柄同政手政發鏡鏡章曉光義光白

誠仁源自江兄柯柄同政手政發鏡鏡章曉光義光白

于屏間設高几納仰資之贊得而進之曰大凡致
富之道當先去其五賊五賊不除富不可致請其
目曰即世之所謂仁義禮智信是也士盧胡而退
ありはるるにさきくひなり

補

物ありやうりやうり

俗

俗間抄ありやうりやうり

今あつて一菲雪録曰撰昌高八舎家軒墀之間
畜龜數年生育至百餘其家產子五人皆龜胸
偃腹蓋孕婦感其氣所致又至正末越有夫婦
於大善寺金剛神側傳葦席而居其婦產一子
首兩内似角類所謂夜叉蓋產婦依止土偶便
稟得此形。夢笑筆談曰菜品中蕪菁芥之
類遇旱多結成花如蓮花或作龍蛇之形熙寧
年本寺賓客及之知淮州園中菜花果成荷花仍

補

俗間抄

俗間抄云云

今

今抄云云

萬

萬解明珠曰西方金神左手有青蛇面目有毛虎

凡

凡執錢○山海經圖讚曰西方有青蛇收金神白毛虎

有

有白虎神好飲人血○吳地記曰虎岳山金精化

為

為白虎○國語曰親公夢有廟有神人面白毛虎

凡

凡執錢○國語曰親公夢有廟有神人面白毛虎

五雜俎曰陰陽家歲破歲殺歲刑
災殺之歲將軍却殺金神○戊申

夜遊戲于市人多見之一夕有膽勇者至夜密伺
果見石孩兒徐々自橋而下遂大呼有鬼以刃逐
至其處研去其頭在遂絕之類石同

○雜事 文字并俗論

神 石とあくしん流

一書云延久年中斜岩以くくする斜は十斗なり
石瓜げくきめりて石と斜の音にむけり

今抄く、那より夢溪筆談曰、鈎石之石、五摧之石、
石重百二十斤、後人以一斛為一石、自漢已如此、今

人乃以梗木一斛之重為一石考一知

神 斛の字はくきめりてしん流

俗流、ゆえに斛の字はくきめりてしん流とあり
今抄く、斛の字偏くくきめりてしん流とあり

が言曰、自梁而西謂之船、自梁而東謂之舟、說文

曰、舟言周流也、船言循也、循水而行也、總名曰艘

とあり、梅村載筆曰、秀次関白乃所立の傍に

命とて註の抄と作し、舟と船と相よすむとあり

借し、舟、詩、邶、風、百舟と相よすむとあり

けて、舟、儀、なりと、辨も、舟、とあり

と記して、舟とて、舟の字と取出し、舟に

唐のその人、舟、とあり、舟の字、舟と書入り

たり、元、結、而、月、とあり、建、仁、寺、乃、推、長、老、の、

れ、き、と、あり、又、帝、の、とあり、瓜、瓜、とあり、

津、い、あり、とあり、舟、とあり、舟、とあり、

日、黃、帝、作、舟、楫、韻、府、群、玉、曰、黃、帝、臣、共、敷、貨、扶、

剡、木、為、舟、剡、木、為、楫、並、黃、帝、臣、とあり、考、とあり、

今按... 俗用... 俗用... 俗用...

俗用... 俗用... 俗用... 俗用...

俗用... 俗用... 俗用... 俗用...

俗用... 俗用... 俗用... 俗用...

俗用... 俗用... 俗用... 俗用...

俗用... 俗用... 俗用... 俗用...

俗用... 俗用... 俗用... 俗用...

俗用... 俗用... 俗用... 俗用...

補 黃鳥... 割...

俗用... 俗用... 俗用... 俗用...

俗用... 俗用... 俗用... 俗用...

俗用... 俗用... 俗用... 俗用...

俗用... 俗用... 俗用... 俗用...

俗用... 俗用... 俗用... 俗用...

俗用... 俗用... 俗用... 俗用...

俗用... 俗用... 俗用... 俗用...

俗用... 俗用... 俗用... 俗用...

俗用... 俗用... 俗用... 俗用...

俗用... 俗用... 俗用... 俗用...

俗用... 俗用... 俗用... 俗用...

俗用... 俗用... 俗用... 俗用...

俗用... 俗用... 俗用... 俗用...

俗用... 俗用... 俗用... 俗用...

俗用... 俗用... 俗用... 俗用...

俗用... 俗用... 俗用... 俗用...

俗用... 俗用... 俗用... 俗用...

俗用... 俗用... 俗用... 俗用...

是鶴類... 被人呼黃鳥... 名...

春上... 鳴形... 會...

俗用... 俗用... 俗用... 俗用...

俗用... 俗用... 俗用... 俗用...

俗用... 俗用... 俗用... 俗用...

俗用... 俗用... 俗用... 俗用...

俗用... 俗用... 俗用... 俗用...

俗用... 俗用... 俗用... 俗用...

有用北地山姜為杜若者杜若古人以為香州見
離騷曰稗史續編詩曰北地山姜何嘗有香又曰本草圖
經曰杜若苗似山姜花黃赤子赤色大如棘子
ありこれともつて日本にくいふきつとむは
別名なりありなりなり

補

奥州高蒲より伝来すつては用ふ所

後云藤原實方中将奥州下向の時伝来す高蒲な
りしつて水草は同じ草とて昔よりつと伝
ふるなりれより四のうらひとありつと伝
今奥州高蒲より伝来すつては用ふ所
てありて筑紫字久が伝来すつと伝来す
うのは地をぐ中ね字方羽長くつと伝来す
高蒲よりつと伝来すつと伝来すつと伝来す
つと伝来すつと伝来すつと伝来す

つと伝来すつと伝来すつと伝来すつと伝来す
つと伝来すつと伝来すつと伝来すつと伝来す
つと伝来すつと伝来すつと伝来すつと伝来す
つと伝来すつと伝来すつと伝来すつと伝来す
つと伝来すつと伝来すつと伝来すつと伝来す
つと伝来すつと伝来すつと伝来すつと伝来す
つと伝来すつと伝来すつと伝来すつと伝来す
つと伝来すつと伝来すつと伝来すつと伝来す
つと伝来すつと伝来すつと伝来すつと伝来す
つと伝来すつと伝来すつと伝来すつと伝来す

廣益俗説辨殘編四十四遺目録

○雜類 人事

息女と娘と書説

うげぐみの説

○雜類 文字言語

天竺文字考靈帝沛宇に汲る説

者と書説

○雜類 器物

丸折烏帽子の説

尺八の説

○雜類 衣服

舊苔の袖の説

○雜類 藥種

香のいづれの説

補

補

補

補

補

補

補

補

るひらりるの由カケはさその大童コウハとていふ人といふる一
いふもして烏帽子と者どもやしゆくる折なり一甲斐
因の大きき者といふ烏帽子商人道しゆくゆきあり
の者ハ土肥次郎實平が家人なりしは烏帽子
折きありしをよとせしけりある宿をよほしき酒
者出りてもてをく酒宴ありては烏帽子箱成もち
出て一にわら八人よまのしゆくる折なりし折が
いよせ頰ヒタハ右の一頰たり折なり成たりも折敷より
折ありやしくよひて七人が烏帽子とてまへに伝へり
ちよ折てよあつ子なり折敷一人ハ折なりし折は
なり深きる祖ハ幡成たり折の烏帽子成なり
より商家成りし將軍たり折の烏帽子也今商人
の力しとこれと著りハ幡成善哉乃商人を而よ
いれりりてきせりひらりるころとまよありし

定りりりし者とらへし又烏帽子ハ折なりし折なり
黒川道祐曰凡烏帽子前類左邊有凹處者源家著
之右邊有凹處者諸家共用之凡左右之内方有凹者
是謂行額俗誤為左折右折左右共者凹者是謂諸額
とありハ成考ふべし

神 八八の説

俗説云八ハ後醍醐天皇帝子ハ流紫宮よりけり
今ありしハ流紫宮なりしよりけり因字紀綱曰
房介然善吹尺八容齋隨筆逸史仙傳傳者尺
八事辭卿日月酒令曰遠望漢舟不聞尺八憑果下
士已覺空喉丹鉛總録曰蕭管之制六孔有下孔加
竹膜焉足黃鐘二韻聲或謂之尺八管管絃記曰馬
鞞狀長笛空洞無底刻其上五孔一孔出其背似今
之尺八也とありハ成考ふべし

西國ヲホヒト一巨人の足跡とて多しもろこ一はなれよ
ひしきしるありとて雑助曰始皇時有人見
臨洮脚跡六人洪武時公孫卿至東萊見大人長數
丈跡甚大魏咸熙二年二月大人見襄武縣跡三尺
三寸水經曰華巖巨靈手盪脚蹋用而為兩今
掌足之跡仍存華巖又曰廣武馬蹄谷登石上馬
跡若踐日牟以て七根流よせありとてひなり又沙のりハ
事文類聚曰陝西行都司鳴沙山沙州南沙如乾糖
天氣清朗時沙鳴聞於城内其沙或隨人足而墜
徑宿復還於山上とありみ同

○雜類 禽獸

補 蒙貴と猫との説

俗る蒙貴ハ猫の異名と云へりるあり
今按るり別物なり事言曰蒙貴狀如猯小紫

黒色カクチ畜之捕鼠甚于猫カクチと見えり

○雜類 魚蟲

補 硯の中より龍あり

俗説云武州金澤よ一寺あり任持硯と石約あり日
大雨のり硯破く龍ありと云奇異雜談

今按るり瑯環記曰水仙子恒弄一圓石如鳥卵色
類至一日忽大風雨其石裂破有一虫走出就視池
飲水無風飛去蓋龍也とありみ同

○雜類 草木

補 梅と木母との説

俗謂り梅と木母といふ説
今按るり湖海新聞曰北朝山濤字致遠赴召宋
神宗問曰卿自山路来上曰自山路来木公木母
如何濤云木公正傲歲木母正含春木公松也木

母梅也ハハ稱カサテ肯シス除ス中書ニてスてスり

補 日本ノの海棠ノ花ノ伝

俗ニ用スる海棠トもろくもあり

今ハ梅ノもろくもありる海棠ハ別ニあり壺
中ノ贅録曰ク世ニ謂フ海棠無香西蜀潼川府路所
属ス昌州海棠獨有香成都人謂海棠為花尊
貴之也延中筆記曰四州重慶府海棠香固
在大足縣海棠此地產者獨有香鶴林玉露曰
洛陽人謂牡丹為花成都人謂海棠為尊貴之
也花譜曰蜀中海棠皆有色無香昌州海棠有
香其本合抱海棠花盛於蜀而秦中次之蓋其
株修然如出塵高步俯視衆芳有超群絕類之勢
而其花之盛豐葉甚茂枝甚柔望之甚都綽約如
處女とあり唐ノ相賈ハ百花譜トアリ

海棠トもつて花中ノ神仙トシ女宗皇帝ハ揚貴
妃トもつて海棠ノ眠トシテ海棠ノ衆花ノ報
々トハ日中ノ海棠トシ云々トシハ
々々トシ女宗曰ク日中ハ海棠カ
世々トシ海棠トシ々々トシ林檣ノ雄樹トシテ雌樹ハ
花アリトシ賈ハ俗ニハ雄樹ハ花ノトシ々々トシ定カ
々々トシ々々トシ々々トシ

補 女帝花ノ伝

俗ニ伝ス云ク日中ハ海棠ノ衆花ノ報
々トハ日中ノ海棠トシ云々トシハ
々々トシ女宗曰ク日中ハ海棠カ
世々トシ海棠トシ々々トシ林檣ノ雄樹トシテ雌樹ハ
花アリトシ賈ハ俗ニハ雄樹ハ花ノトシ々々トシ定カ
々々トシ々々トシ々々トシ
本朝列女傳引靈鬼志曰何文漢人也者三子容貌
甚美卒死葬之明日見其墓畫成菊花名菊

廣益俗說辨殘編四十五補遺

肥後隈本

井澤節長秀輯録

○雜類 俗書

補 吳越軍の事

太平記曰越王勾賤 吳王夫差がなるよりこれの事あり
 ありけり勾賤の母范蠡もよみ瓜分けを以て棄て
 けりらとて一貫の魚を以てこれを行ひぬ高のま
 して三國ありしとき姑蘇城ありけり彼樹の色よ
 幼れども樹の根固深なりけりこれ一行の書紙ぬの
 腹の中よりぬきぬき樹の中へ入るげ入り勾賤あり
 々えして魚の腹とありて入りぬ西伯因羨里重
 耳走難治以為王霸莫死許敵とぞ書りけり
 筆の跡文字の神まじくもあきし范蠡がこころなりと
 するふひはれは彼りまじくもあきしとぞ書りけり

肺肝と云くしきりしころのあつたゞしのやどあえれま
み多のもしくもきりらるそのら兵主が石麻とあめて命
以てせしむと越王の弟のころころ、兵主夫妻より使奴
とて越王の臣西施とてわらわら足れなく西施と名取
ておつたしゆる西施ハ小舞の角の末の月とわらわら
中とこころしきりしころのあつたゞしのやどあえれま
とてせしむと越王の弟のころころ、兵主夫妻より使奴
とて越王の臣西施とてわらわら足れなく西施と名取
ておつたしゆる西施ハ小舞の角の末の月とわらわら
中とこころしきりしころのあつたゞしのやどあえれま

越王の宮の弟のころころ、兵主夫妻より使奴
とて越王の臣西施とてわらわら足れなく西施と名取
ておつたしゆる西施ハ小舞の角の末の月とわらわら
中とこころしきりしころのあつたゞしのやどあえれま
とてせしむと越王の弟のころころ、兵主夫妻より使奴
とて越王の臣西施とてわらわら足れなく西施と名取
ておつたしゆる西施ハ小舞の角の末の月とわらわら
中とこころしきりしころのあつたゞしのやどあえれま

光纂は是為闔閭王あり此説ともつてはくわりの

本なり但し日本書紀ハこれよりあり言書集ハ天武

天皇ノ御河内郡のほろろりとのあつたゞしのやどあえれま
小美とつてはくわりの本なり
二月ハ崩御ハ天武六年大伴皇子を御より天武天皇ハ天智天皇十年
とてせしむと越王の弟のころころ、兵主夫妻より使奴
とて越王の臣西施とてわらわら足れなく西施と名取
ておつたしゆる西施ハ小舞の角の末の月とわらわら
中とこころしきりしころのあつたゞしのやどあえれま

た子とせしむる本もなり、兵主が越國乃美女とのぞめると

記もなり、下城の老成なり、兵主の御よりあり

兵地記曰嘉興縣南一百里有語兒亭、句賤人、范蠡
取西施以獻夫差、西施於路與范蠡潛通、三年始建於

吳、遂生一子、至此亭二歲、能有言、因名語兒亭、吳越春

秋曰、諸暨有山、羅山、若耶溪、傍有東施家、西施家、西施

也、美范蠡獻之、吳王、事、言曰、西子、好、西施、夏、姬、也、句賤、獻、吳

西施、越、女、美、也、欲、見、者、先、輸、金、錢、一、文、○、語、兒、亭、在、西、故、曰、西、施、○、事、文、類、聚、曰、

○、唐、宋、叢、書、曰、東、施、家、西、施、家、施、者、其、姓、所、居、在、西、故、曰、西、施、○、事、文、類、聚、曰、

○又同書より天沖落くあるは天沖主尊とて一日沖
落くは日神の御坐るなりとありは心ハ書本爾

若白非なり。鎮座本紀曰從離宮遷幸山田原
新殿奉鎮御船代御通代之内註曰通代則天
小宮之日坐儀也故謂天御蔭日御蔭登隱座
祝言縁也船代則謂天杖木屋船之靈放瑞舍
名號屋船縁也天御蔭日御蔭隱座古語也
倭姬世紀曰美豆乃御舍乎造仕也天御蔭日
御蔭止隱坐互とあり

○又同持可々吞天年とは海神の不淨と物と
情淨とあり吞とありは右同

若白非なり神祇類聚本原曰吞女曰此國故鹿
乃見哉毛為止白文註曰曷飲訓之云鹿乃見

盃訓之云哉毛為也盃土飲器言食飯飲水而止
渴滿腹俗云八坏是也可々二字延喜式作哥一
字者為得或曰從速秋津姫至依須良比失者各
寄神號漸文義寄速秋津姫稱謂可吞寄可吞而
謂伊吹戸主吹放寄依須良姫號而謂依須良比
失言口速用津姫則可吞也用津姫可吞則氣吹
戸主吹放也氣吹戸主吹放則依須良姫尤遷也

中臣板
義解

此況解一併く的當とて誤つ

○又同若平記叙き新羅より生初より七叙扱て日
より草薙叙きんとして尾張國とて入くと純白月神
蹤叙くは依須良比とて七振乃叙と草薙叙加て察殿の納
りふふの八叙有沖と号しとありは心

若白非なり神祇類聚本原曰吞女曰此國故鹿
乃見哉毛為止白文註曰曷飲訓之云鹿乃見
神祇秘書曰沙門道行盜取叙叙異阻逢風而不達先

改者重武被送熱田社自爾以降造加釵七柄天為八釵字の成
況しき

○又同しつゝは釵りかにならざる

そとつゝもその因とるも日本あふものか
生八釵曰自古指物之製莫不有源傳統唯鑄釵之術
不待典籍亦不之載故今無釵名而世少名釵と嘆せり

○又同しつゝは釵りかにならざる

そとつゝもその因とるも日本あふものか
生八釵曰自古指物之製莫不有源傳統唯鑄釵之術
不待典籍亦不之載故今無釵名而世少名釵と嘆せり

右ノ上付依友人之間答之

○又同後後并し書のたをまらる

昔は地編ありしを

廣益俗説辨殘編四十五終

記于殘編俗説辨之尾

西域之舍利見碑於傳奕之槌
我朝之俗説見破於不肖之辨
雜事物異其類共是不快意身
嚮著正後遺附編今也殘編既
脫稿若夫他日所出之俗説猶
待終編之筆于机上

享保壬寅之春

細川越中守宣紀武臣島銳首

井澤十郎左衛門長秀

廣益俗說辨正編二十一冊

同後編五冊

同遺編五冊

同附編七冊

同殘編八冊合四十六卷版行出来

同終編未刻

京六角通御幸町西江入

享保十二丁未歲季春穀且

書林茨城多左衛門板行

殘篇八卷借吉田氏本寫之

大政二己卯八月十八日止但同月自六日起筆

中村萬喜直道

